

■科目名

教育心理学概説

Introduction to Educational Psychology

■開設年度

2021

■区分

学部共通基礎科目

■学科名

心理学

■分類

■単位数

2

■履修期

1期

■履修条件

■開講期

前後

■担当教員

下木戸 隆司

■代表教員名及び連絡先等

t-shimok@edu.kagoshima-u.ac.jp

■オフィスアワー

金曜5限(前期)・金曜4限(後期)

メールでの質問は随時

■講義の概要(目的・内容・方法)

教育活動を円滑に進めていくためには、児童生徒の行動と心理を理解しておくことが必要不可欠である。

本講義では、教授・学習法、動機づけ、教育評価、学級集団、発達、学習等の内容を取りあげる。それらに関する基礎的知識の習得と諸理論の理解、および自分自身の教師観・教育観の確立を目的とする。

■授業の到達目標及びテーマ

1. 効果的な学習の仕組みを理解し、児童生徒の特性や状態を適切に評価した上で、それに応じて指導方法を選択できる。
2. 学級内での人間関係、教師の影響、集団力学を理解することで学級運営についての自らの考えや見解を深めることができる。
3. 人間の発達の特性を理解し、生涯発達の観点から、個々の児童・生徒に応じた関わり方や指導法について着想できる。
4. グループワークを通じて、仲間と協力しながら課題を成し遂げていくことができる。
5. 学校教育で問題になっている諸事項について、教師として自分がどうすべきか・どうしたいのかについて意見をまとめ、表明できる。

■授業計画

第1回：オリエンテーション 教育心理学はなぜ必要か？ 授業の進め方

第2回：オリエンテーション 学校教育の特殊性 グループ活動について

第3回：学習 学習の原理 代表的な学習理論

第4回：教授・学習法1 学習指導の考え方 発達を踏まえた学習指導 学習指導の形態(一斉、グループ、個別)

第5回：教授・学習法2 様々な学習法(発見学習、有意味受容学習、バズ学習、プログラム学習等)

第6回：動機づけ 動機づけの原理 内発 vs 外発 動機づけを高める工夫

第7回：教育評価1 教育評価の目的・方法・評価に影響する要因

第8回：教育評価2 学力・知能の測定評価 新学力観

第9回：教育評価3 性格の測定評価

第10回：学級集団1 学級集団の特徴と機能 教師生徒関係

第11回：学級集団2 教師のリーダーシップ 学級運営と集団づくり

第12回：発達1 発達の特徴 内的要因(遺伝)と外的要因(環境)の相互作用 代表的な発達理論

第13回：発達2 乳幼児期から青年期までの発達の様相 認知発達 社会性の発達

第14回：発達3 発達障がい(神経発達症群) 特別支援教育

第15回：まとめ よい学び・よい授業・よい学級について考える

■授業外学習(予習・復習)

【復習】

授業の際に提示した課題に基づき、グループレポートを作成する。各自が課題テーマについて考えたり、メンバー同士で議論したりして意見をまとめることが必要である。

■受講要件

原則として、以下のコースの学生であること。

令和3年度入学

前期： 初等教育コース(1~7組)

後期： 初等教育コース（8～12組），特別支援
 それ以前入学
 前期： 初等教育コース
 後期： 実技系初等中等教育コース，特別支援

特別な事情がない限り，1年次に履修しておくことを求める。

■成績の評価基準

全12回あるグループレポートの内容と授業への参加状況から成績を評価する。出席は成績評価には加味しないが，無断欠席が4回以上になった場合は不合格とする。授業開始から10分を超えて出席した場合には遅刻として，さらに30分を超えた場合には欠席として扱う。遅刻・早退は0.5回分の欠席と見なす。

■教科書・参考書

教科書はとくに指定しない。
 参考書についてはオリエンテーション時に配布する。

■教師としての資質能力に関するチェック項目

5. 協働実践力

【B連携協働力、自己改善力の育成】 集団の中で，役割に応じてリーダーシップを発揮したり，他者と連携・協力して活動したりできる

8. 自己改善力

【B連携協働力、自己改善力の育成】 自らの課題を発見し，解決に向けた具体的な方法を企画・実践するとともに，結果を省察して改善につなげることができる

9. 学習者の心理・発達に関する理解

【C学習者理解】 子どもの発達や心理など，子ども理解のための基礎的な知識を身に付けており，それらを生かして子どもの発達を分析することができる

アクティブ・ラーニング

グループ・ディスカッション；
 その他；

アクティブ・ラーニング（その他）

グループレポート作成

アクティブ・ラーニング（授業回数）

12回

■実務経験のある教員による実践的授業

■その他

1年生が多い講義であることを考慮し，原則対面で実施する。
 コロナ感染症等の事情により，対面授業と遠隔授業の併用や遠隔授業のみで実施することもあり得る。
 その場合でも，グループでレポートを作成することはかわらない。